

IX 探究活動報告

I、「地理総合」大阪狭山市 フィールドワーク

1. 日時 令和6年11月11日（月）～15日（金）
2. 場所 本校から南海電鉄金剛駅周辺にかけての地域
3. 学年 2年生全クラス
4. 題材名 フィールドワーク ー大阪狭山市に隠された地理や歴史とはー
5. 題材の目標

(1)【知識及び技能】

本校周辺の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。

(2)【思考力・判断力・表現力等】

本校周辺の地理的な課題について、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

(3)【学びに向かう力、人間性等】

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、国際交流だけでなく地域連携も重視している本校の生徒としての自覚などを深める。

6. 教材観

地理学習の一環として、本校から南海電鉄金剛駅周辺にかけての地域のフィールドワークを実施する。

第1時では、大阪狭山市の概要について扱う。本市や周辺の市町村の位置・地形を知り、新旧地形図を比較することで、フィールドワークで学習した内容を補完させ、本市への関心を高め、深い学びへと繋げるための教材となっている。

第2時である本時では、実際にフィールドワークを実施する。フィールドワークを通じて、地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、国際交流だけでなく地域連携も重視している本校の生徒としての自覚などを深めさせる。本市の地理や歴史について理解させ、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、設定した主題に対して多面的・多角的に考察、構想し、表現するための教材となっている。

7. 生徒観

本校生徒は教員の指示のもと、的確に行動することのできる生徒が多い。指示された事柄に対して行動する力は十分だが、主体的に考えて行動することに関して苦手意識を持つ。

本時では、本市に関する知識を身につけ関心を高めるほか、フィールドワークで求められる、一つの事象を多面的・多角的に考察する力を養わせ、主体的にかつ広い視野で課題を解決しようとする姿勢の構築を目指す。

8. 指導観

本題材を通じて、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。そして、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現できるような指導を目指す。そのため本市に関する知識を一方通行的に教授するのではなく、適宜問いを投げかけ、地形を多面的・多角的に観察することで新たな知識を得られるという過程を重視して指導を行う。あわせて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うために、生徒一人一人がそれぞれの事象について思索を張り巡らせられる時間を確保できるよう、留意して展開する。

9. 題材の評価規準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に取り組む態度【c】
本校周辺の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解している。	本校周辺の地理的な課題について、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、国際交流だけでなく地域連携も重視している本校の生徒としての自覚などを深めようとしている。

10. 題材の指導と評価の計画（全2時間）

時	学習内容	評価の観点			主な評価規準（評価方法）
		a	b	c	
第1時	本市や周辺の市町村の位置・地形を知り、新旧地形図を比較することで、大阪狭山市の概要について理解する。	◎	○		【a】学習プリントを取り組み、本市の概要を理解している。 【b】学習した知識から地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに関して多面的・多角的に考察している。
第2時 （本時）	フィールドワークから、本市の地理や歴史の理解を深め、地形を観察することで養われる力を活用し、諸事象を多面的・多角的に考察する。	○	◎	○	【a】本市の地理や歴史についてよく理解している。 【b】地形を観察することから、諸事象を多面的・多角的に考察する力が養われている。 【c】地域連携も重視している本校の生徒としての自覚を深めている。

11. 本時の展開

（1）本時の目標

本校の周辺地域を基に本市についての知見を広げフィールドワークを通じて物事を多面的・多角的に考察する。

（2）本時の評価規準

【a】本校から南海電鉄金剛駅周辺にかけての地域を観察して、本市の地理や歴史について理解できている。

【b】地形を観察することから、本校周辺の地理的な課題について、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、諸事象を多面的・多角的に考察、構想している。

【c】フィールドワークを通じて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、国際交流だけでなく地域連携も重視している本校の生徒としての自覚などを深めようとしている。

（3）本時の準備物

- 名列
- クリップボード（20枚）
- 授業プリント（再配布用数枚）
- フィールドワーク時に使用する各種資料
 - ・資料1：ルートマップ
 - ・資料2：大阪狭山市および周辺の地形
 - ・資料3：日本書紀における大阪狭山市に関する記述
 - ・資料4：ルートマップの断面図
 - ・資料5：河岸段丘の形成と構成
 - ・資料6：天井川の形成
 - ・資料7：氾濫原とその構成
 - ・資料8：大阪狭山市防災マップ
 - ・資料9：市内を通る歴史街道
 - ・資料10：大阪狭山市における鉄道敷設の変遷

（4）本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 （分）	○授業開始までに必要なものを持って東門に集合する。	○忘れた生徒には、蛍光ペンは他の生徒に借りるよう指示し、授業プリント	

	・蛍光ペン、シャープペン ・授業プリント ○クリップボードを借り、フィールドワーク時の注意事項を確認する。 ○今回のルートと目的を確認した後、A地点へ移動する。	はその場で再配布する。 ○出欠状況を確認し、引率教員（丸山先生）の紹介をする。 ○以下を再度伝達する。 ・クリップボードは終了時元の場所へ返却すること。 ・周囲の交通状況に常に気を配り、広がって歩かないこと。 ・私道も歩くため大声での会話は慎むこと。 ・体調が優れない場合は早急に申し出ること。 ○今回のルートと目的を伝達する。 <ルート> 本校東門（A地点）からメディカルスクエア金剛駅前（H地点）をルートに沿って移動する。＜資料1＞ <目的> 本校の周辺地域を基に大阪狭山市についての知見を広げ、フィールドワークを通じて物事を多面的・多角的に考察する。	
展開 1	< A地点 > ○「狭山」「半田」の2地名の由来を理解する。	○2地名の由来を説明する。 <狭山> ・東の羽曳野丘陵、西の泉北丘陵に挟まれ、なだらかな丘陵と段丘を中心に形成された地形に由来している。 ・「さやま」という地名の残る場所は、全国13か所で確認できる。 <半田> ・『日本書紀』には「河内の狭山の埴田水少なし」という記述がある。 ・埴とは橙色をした砂礫質の土壌を指し、透水性が高いため水田耕作には適さない。 ・そのため、日本書紀では「水少なし」と記述され	○「狭山」「半田」の2地名は周辺地形に由来して命名されたことを理解できている。【a】

	○B地点に移動し、本校の周辺地形の特徴を考察する。 <B地点> ○資料4からA地点とB地点の標高差を確認する。 ○周囲に西除川が流れていることも確認し、本校の周辺地形が河岸段丘であることを理解する。 ○河岸段丘の形成・構成について復習する。 ○C地点に移動し、西除川から周辺地形を多角的に考察する。 <C地点> ○西除川の河床とルート東側（金剛駅側）に広がる水田を比較する。 ○天井川の形成について復習する。 ○C地点以降の蛇行したルートから地形の特徴を考察する。 ○氾濫原とその構成について復習する。	ていた。 ・半田は埴田の地名が変化したものと伝えられている。 ○ルート西側（本校側）を振り返らせることで、2地点間に標高差があることを補足する。 ○周囲に河川が流れていることから、本校の周辺地形は河川によってつくられた地形の中でも、河岸段丘であるということを導く。 ○河岸段丘の形成と構成について説明する。 ・河岸段丘は河川の侵食によって河川に沿って形成された階段状の地形である。 ・ほぼ平坦な面である段丘面と、それを区切る段丘崖に分けられる。 ・一般に、高い所にある段丘ほど古い時代に形成されている。 ○西除川の河床が周囲よりも高いことから、天井川が形成されていることを導く。 ○天井川の形成について説明する。 ・河川の氾濫から守るための堤防がつけられると、河道に砂礫の堆積が進んで河床が高くなる。 ・こうして河床が周囲の平野面より高くなった天井川が形成される。 ・西除川では数年に一度、重機による河床高度の調整が行われている。 ○蛇行したルートから、この道がかつての河道であったということを導く。 ○蛇行した旧河道がみられることから、この地域が氾濫原であるということを導く。	○A・B地点の標高差と西除川の存在から、本校の周辺地形が河岸段丘であるということを考察できている。【b】 ○河床高度から西除川が天井川であることを考察できている。【b】 ○蛇行したルートから、この地域が氾濫原であることを考察し、土地利用から周辺地形の特徴（自然堤防・後背湿地）を考察できている。【b】
--	--	--	---

	○C地点周辺の土地利用から地形の特徴を考察する。 ○防災マップから大阪狭山市の洪水浸水想定区域を読み取る。	○氾濫原とその構成について説明する。 ・氾濫原とは、洪水の時に流路に沿う一帯が浸水することによってつくられた起伏の小さな土地である。 ・地表は河川の堆積物に覆われ、河川の蛇行・三日月湖・自然堤防・後背湿地などの地形がみられる。 ○ルートを挟んで北側には水田が、南側には住宅が広がっていることから、当地点にはそれぞれ後背湿地・自然堤防が築かれたことを導く。 ○防災マップから、本市のなかでもC地点周辺の洪水の危険性が高くなっていることを導く。	○防災マップから大阪狭山市の洪水浸水想定区域を読み取ることができる。【b】
展開 2	○D地点に移動し、吉川家住宅から周辺地域を歴史的に考察する。 <D地点> ○吉川家住宅の概要を理解する。 ○吉川家住宅の当時の役割を考察する。	○これから私道を歩くため、迷惑にならないように再度注意する。 ○吉川家住宅の概要を説明する。 <成立年代> ・吉川家住宅は江戸時代初期の建築で、当時の河内地方の農家の姿をよく伝えていることから、大阪の有形文化財に指定されている。 <構造> 建築用語を用いる際は補足を入れるようにする。 ・屋根は入母屋造りで入り口は妻入り様式である。 ・大阪狭山市の民家は、ほとんどが平入り様式だが、半田地区には吉川家住宅を含めてわずかに妻入り様式の民家が残っている。 ・吉川家住宅は地形から自然堤防上に立地していると予測され、水害防止のため石積みの家屋となっている。 ○隣接している郷倉の存在から、吉川家住宅は当時半田村の庄屋を務めてい	○吉川家住宅の概要を理解し、隣接している郷倉から当時半田村の庄屋を務めていたことを考察できている。【a】【b】

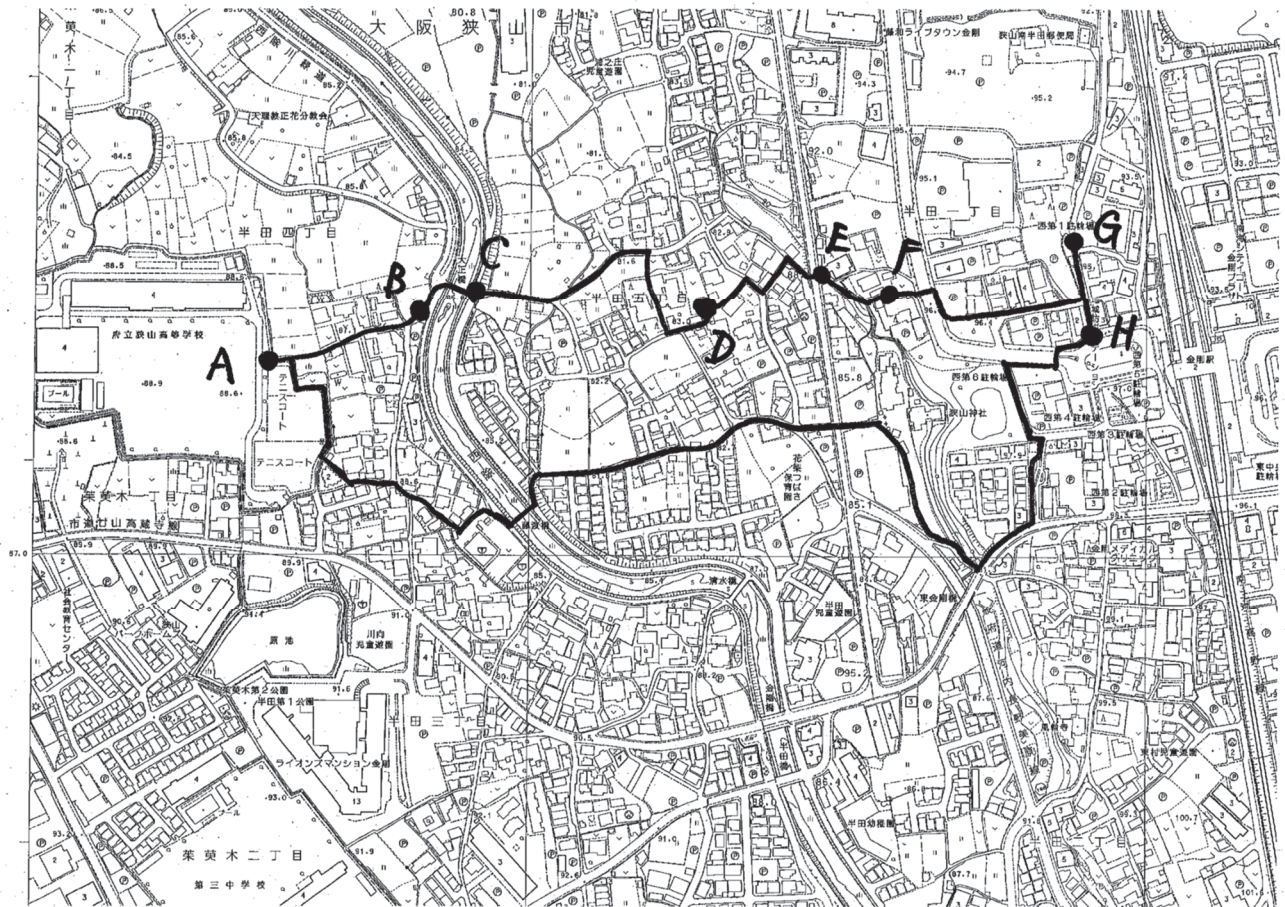
	○E 地点に移動し、近辺の標高と植生から周辺地形の特徴を考察する。 ＜E 地点＞ ○F 地点に移動して、地形・地名から周辺地域を歴史的に考察する。 ＜F 地点＞ ○E－F 地点間の坂道の名称について理解する。 ○周辺地形から半田城の立地要因とその範囲について考察する。 ○G 地点に移動し、歴史街道から当時の信仰に思いを馳せる。	たことを導く。 ・郷倉とは、江戸時代において郷村などで、年貢米を上納するまで貯蔵し、また凶作に備えて穀類を保存した共同倉庫を指す。 ・郷倉は庄屋に管理責任が負わされていた。 ・庄屋とは、年貢割当・法令伝達などの責任を負い、村政全般を統括した村の長を指し、関東では名主と呼ばれる。 ○E 地点を挟んで東西で10 m程の標高差があることを理解させる。 ○E 地点の西側には、竹林が広がっていることから、E 地点周辺は段丘崖となっていることに導く。 ・竹の地下茎は生命力が旺盛でよく伸長するため、崖上でもしっかり固定されて成長する。 ○E－F 地点間の坂道は通称「シロノサカ」といわれる。 ・この坂道を上りきった先に広がる段丘面に、南北朝時代に築かれた半田城があったとされている。 ・当時河内国を治めていた楠木正成軍の武将は南朝側に立ち、戦いが繰り返されていたが、半田付近が戦略上の拠点となっていた。 ＜立地要因＞ ○F 地点西側には段丘崖が、南北と東には土塁が築かれていることから、四方からの攻撃に備えており、半田城は中位段丘崖の落差を防御地形として利用する中世城郭であったことを導く。 ＜立地範囲＞ ○シロノサカを含む段丘崖は狭山神社付近まで伸び	○E 地点周辺の標高差と植生から、近辺に段丘崖が広がっていることを考察できている。【b】 ○シロノサカの概要を理解し、周辺地形から半田城の立地要因とその範囲について考察できている。【a】【b】 ○中高野街道の概要を理解
--	---	--	--

	< G 地点 > ○中高野街道の概要を理解する。 ○H 地点に移動し、金剛駅から近代化の歩みを理解する。 < H 地点 > ○金剛駅の変遷について理解する。	ていることから、南北は狭山神社からシロノサカを含む付近まで、東西は当段丘崖から狭山神社東側に広がる段丘面付近までのエリアが半田城跡であることを導く。 ○中高野街道の概要を説明する。 ・平安時代以来、京・大坂・堺から多くの参詣者が高野山をめざした。 ・大阪狭山市内には、高野山に向かう 3 つの街道が通っている。 < 資料 9 > ・中高野街道は、四天王寺から平野を通り、河内長野で他の高野街道と合流して高野山へと至る参詣道である。 ・沿道には西迎寺や極楽寺、風輪寺など、天台宗の一派が開いた融通念佛宗の寺院が点在している。 ・当街道は大阪市平野区にある融通念佛宗の総本山大念佛寺と、高野山を結ぶ「融通念仏の道」でもある。 ○金剛駅の変遷について説明する。 ・鉄道の敷設は近代化を象徴するものである。 ・金剛駅は高野鉄道、高野登山鉄道を経て、1947 (昭和 22) 年以降南海電鉄が経営している。 ・大阪狭山市には、1898 (明治 31) 年に大小路駅 (現堺東駅) から狭山駅まで鉄道が敷設され、その後河内長野まで延長された。 ・狭山－河内長野間に 1898 (明治 31) 年に河内半田駅が敷設され、その後、狭山遊園前駅と改称され、2000 (平成 12) 年から大阪狭山駅となった。 ・金剛駅は 1937 (昭和 12) 年に増設された。 ・現在の金剛団地周辺で開催された「金剛園」(期	し、当時この街道にはどのような役割があったかを理解できている。【a】 ○大阪狭山市における鉄道敷設の変遷について理解できている。【a】
--	---	---	---

		間限定の四国八十八か所巡りを模したテーマパーク)の最寄り駅として新設された。	
まとめ	○H地点を出発し、帰校する。 ○クリップボードを返却する。 ○授業プリントフィールドワークを提出する。	○以下を再度伝達する。 ・周囲の交通状況に常に気を配り、広がって歩かないこと。 ○体調不良者がいないか確認する。 ○Classroomに投稿されている「フィールドワーク_感想」に回答することを指示する。	○現地で学習したことをプリントに適宜メモし、今回のフィールドワークについて振り返ることで、学習内容を整理できている。【c】

(5) ルートマップ

A地点：本校東門 B地点：大正橋横駐車場
C地点：大正橋 D地点：吉川家住宅郷蔵前
E地点：シロノサカ下 F地点：シロノサカ上
G地点：立て看板「中高野街道と狭山神社」前
H地点：金剛駅



フィールドワーク実施要項

目的

本校の周辺地域を基に大阪狭山市についての知見を広げ、フィールドワークを通じて物事を多面的・多角的に考察できるようにするため。

実施日

2024年11月11日(月)～15日(金)内の「地理総合」の授業時(雨天順延)

実施方法

各クラスにおいて出席番号1～20番をAグループ、21番以降をBグループとして、グループごとに実施する。

フィールドワーク 実施 グループ	
持ち物	・筆記用具 ・フィールドワーク実施プリント →フィールドワーク終了後に提出すること(取り組み具合を確認します)。
注意事項	・授業開始までに東門に集合すること。 ・東門横に置いてあるクリップボードを借りること(終了時必ず元の場所へ返却すること)。 ・周囲の交通状況に常に気を配り、広がって歩かないこと。 ・私道も歩くため大声での会話は慎むこと。 ・体調が優れない場合は早急に申し出ること。

フィールドワーク 待機 グループ	
持ち物	・筆記用具 ・Chromebook ・実施要項 待機グループ課題冊子
注意事項	・授業開始までに3階西教室に集合すること。 →教室前方に掲示している座席表を見て着席すること。 ・待機グループ課題冊子に取り組む。 →解答に困ったらChromebook等で調べ、適宜相談し合っても良い。 →色鉛筆は教卓横に置いてあるものを使用し、使用後は必ず戻すこと。 →何か困ったことがあれば、社会科学準備室にいる先生を訪ねること。 →授業後、社会科学準備室前のカゴに提出すること(未完成の場合は完成させてから提出する)。

実施日程表

雨天時は通常授業とし、予備日に順延する。

	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)
1限	2年2組 A:実施 B:待機	2年5組 A:実施 B:待機			
2限	2年3組 A:実施 B:待機				
3限		2年3組 A:待機 B:実施	2年4組 A:待機 B:実施	2年1組 A:実施 B:待機	
4限	2年4組 A:実施 B:待機	2年6組 A:待機 B:実施		2年2組 A:待機 B:実施	2年1組 A:待機 B:実施
5限					2年5組 A:待機 B:実施
6限	2年6組 A:実施 B:待機				

	18日(月)	19日(火)	20日(水)	21日(木)	22日(金)
1限	2年2組 予備1	2年5組 予備1			
2限	2年3組 予備1				
3限		2年3組 予備2	2年4組 予備2	2年1組 予備1	
4限	2年4組 予備1	2年6組 予備2		2年2組 予備2	2年1組 予備2
5限					2年5組 予備2
6限	2年6組 予備1				

以上

解答用紙

解答用紙のみ提出してください

(1) 大阪狭山市と周辺の市町村の位置を知る

A	市	B	市	C	市	D	市	E	市
F	町	G	町	H	村	I	市	J	市

(2) 大阪狭山市の地形を知る

問1		問2	
----	--	----	--

(3) 大阪狭山市の新旧地形図を比較する

問1	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
問2	m		問3	問4	問5
問6	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)

(4) 狭山池を知る

問1		問2		問3		問4		問5
----	--	----	--	----	--	----	--	----

教員	
チェック欄	

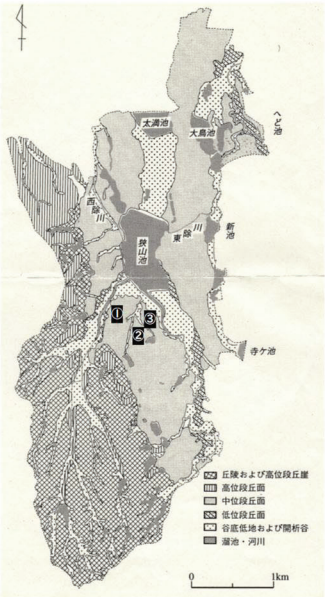


図2

2年()組()番 氏名()

生徒向け実施要項と課題用紙



天井川に実際に赴き、説明する様子

Ⅱ、先行実施授業 大学魅力ジャンボリー

1、目的

大学見学を通じて、学びの環境や施設を実際に体験し、グループで意見を交換することで、協働的に学び、進路選択や自己理解を深める。また、その成果を発表することで、発表に向けて、自分たちの伝えたいことをまとめ、表現する機会を持ち、グループでの役割や人それぞれの特性を理解し、活かせる組織作りに取り組む。

2、対象生徒

1 年生全クラス

3、課題・成果物

- ・フィールドワークの調べ学習（夏休みの課題）
- ・大学に対する自身のイメージや感想レポート（秋の課題）
- ・自分の思う魅力度ランキング表（冬休みの課題）
- ・ポスターセッション用ポスターもしくはスライド（最終成果物）

4、学習の流れと実施日程

夏休み…フィールドワークで大学へ（夏の課題）

9 月末…大学に対する自身のイメージや感想レポート（秋の課題）

冬休み…大学内の魅力度ランキング表の作成（冬の課題）

1 月 9 日（木）…第 1 回魅力共有会

1 月 16 日（木）…第 2 回魅力共有会

1 月 23 日（木）…大学魅力発表会

5、内容

- ・夏季休業期間中のフィールドワーク

1 年生（45 期生）全員を対象に、「各自興味のある大学へ、見学に行き、大学の魅力を発見する」という課題を出した。その際、ツールとして「フィールドビンゴ」を活用し、興味の項目を 9 つに絞った。何かがその項目に該当するかは生徒たちが現地で判断し、それぞれが項目に該当すると感じた場所の写真を撮り、コメントを残させた。この課題は全て form を使用し、入力させた。

- ・9 月末に大学に対する自身のイメージや感想レポート

大学へのイメージ調査を form にて行った。

- ・冬休みの大学魅力度ランキング表の作成

クラスルームのアプリを活用し、1 年生（45 期生）全員に夏休みに訪れた各大学の魅力的な項目をランキング順にまとめる課題を出した。それぞれがその大学で感じた魅力をまとめ form で入力させた。

- ・1 月 9 日（木）…第 1 回魅力共有会

夏休みに行った大学ごとに 1 名～6 名のグループ（人数が多い場合は同じ大学でも a ～に分けた）を作り、話し合いを行った。自己紹介とアイスブレイクを行った後、ここまでの 3 つの課題をグループ内で共有した。

- ・1 月 16 日（木）…第 2 回魅力共有会

グループごとに訪れた大学の魅力を話し合いそれぞれが伝えたい魅力を絞り、ポスターを作成した。ポスターを使って発表を行う際の台本や役割を決め、次週の準備を行った。

- ・1 月 23 日（木）…大学魅力ジャンボリー 場所：体育館

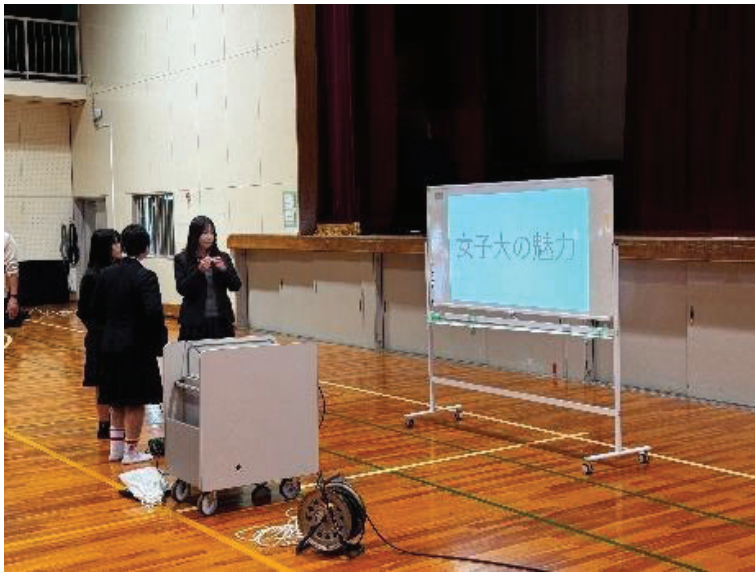
当日の昼休みに代表生徒が作成したポスターを体育館の指定された壁に貼っておく。

6 限目の時間を使い、全体で発表会を行った。

発表会では 1 グループ 5 分の発表を 2 回行った。グループに番号を振り、奇数番号のグループが 2 にわけて発表し、その後偶数グループが 2 回発表するという内容のものであった。

発表を聞くのは生徒がそれぞれ興味を持ったポスターの前へ移動し、発表を聞いて感想を書いた。

発表会后、1 年生には発表会の振り返りをフォームに入力し、提出した。



体育館発表会の様子

Ⅲ、先行実施授業「こども未来フォーラム」

1、目的

大阪狭山市及び大阪狭山市教育委員会と連携し、小中学生が地域についての課題解決能力を育み、同時に狭山高校生との交流を深める中で地域交流を推進する

2、対象

本校有志生徒（3年生）及び大阪狭山市小中学校代表生徒

3、活動内容（議事録）

第1回 議事録（7月16日）

- ・ 7月22日のレジュメの説明
1 あいさつ 2 内容スケジュール確認 3 自己紹介アイスブレイク 4 各中学校別 テーマ交流会
5 おわりに
 - ・ アイスブレイクの内容
バースデーチェーン 言葉を使わず誕生日順に並ぶ をファシリテーション（高校生がやらせる）
 - ・ 交流会 司会内容
 - ・ 校区にいくつテーマがあるの？ ゴミ、道路…
 - ・ どんなことを話せばいいの？
 - ①事前に話し合いをしていることを聞く
 - ②そのテーマにした理由や根拠（②を掘り下げて、導く）
 - ③そのテーマから市に要望することは
 - ・ 交流のゴールは？
★新しい気づきや探究心を育ててあげる
 - ・ チームごとの役割
 - 3：アイスブレイクの司会 Cグループ ポイント（4月はじまり ジェスチャーあり）
時間をはかるかどうか？ 図るならどうやって？
失敗してしまったときの対応（声掛けのシミュレーション）
 - 4：校区別に割り振る司会 Aグループ 2教室に分かれる 3F 社会科教室（前後）・GL ルーム
時間の提示 タイムキーパー
校区全体参加型（ファシリテーション力がある）か 学校別対応型
・ 分かれた中でもう一回わかるかどうか（高校生に任せる）
・ 各校だと進行度に違いが生じやすい
 - 割り振り（第3中学校区）Aグループ6 /（狭山中校区）Bグループ6 /（南中学校区）Cグループ8
 - 5：まとめの司会 Bグループ
各班への発表 各班の活動の感想を聞く（各チームの高校生も？）
連絡事項
 - ・ その他
 - ・ 11月16日は議場で総括←今後の活動により人選（原稿を読む）
 - ・ 22日は13：30に社会科教室集合 16：00解散
- 会議後：駐車許可証の発行 経路の掲示
こどもたちは公用車で送迎
7月22日 校内は市教委担当が案内 生徒は打ち合わせ
10月10日が原稿締め切り
10月31日の会議では原稿はできあがっているので本番のリハーサル準備

第2回 議事録（7月22日）

来校者

第三中学校区 小中学生 6名 狭山中中学校区 小中学生 6名 南中学校区 小中学生 8名
教育関係者 25名 ABCテレビ撮影者 1名

1. はじめに

市教委教育監よりあいさつ（元南第三小学校・狭山中校長 知っている児童・生徒もいる）
小学生の意見：ぞわぞわ、責任感 わくわくのほうが高い

大阪狭山市に必要なことを考える ⇨ どきどき（議場での発表には責任がある）

11月16日は市長や教育長が来場

社会全体で子ども施策を考える機会であり、すべての子どもが自分に関係することに意見を言える、行動ができるそんな社会作りのための新たな試みである

2. 本日の流れ

市教委より

生活科の時間 10 時間 総合的な学習の時間 10 時間を経て、この場が成り立っている

3. アイスブレイキング

本校生徒

2分以内に並ぶ（結果として1分半くらいで完了）

14:15～ それぞれ日付を発表（ごとに拍手） 全般成功 結果確認に4分くらい

4. 校区別交流会の説明

本校生徒

自己紹介からはじめる（得意科目や好きな食べ物）

@第三中学校区（社会科教室 後方）

- ・全員でそれぞれの取り組みについての考えを発表
- ・西小学校および第三中学はパソコンを持参
- ・西小学校はパソコンでの説明（少し見にくい資料もあった）
- ・第三中学は資料はパソコンでつくり、配布資料は印刷してきていた
- ・西小の生徒は発表後すぐにアドバイスを求めて来ていた（おそらくそう指導されている）
- ・*資料をいただいていいですか？と丁寧に確認してくる小学生もいた
- ・*配布資料がプリントで見やすかったことを見習う小学生もいた

@南中学校区（グローカルルーム）

- ・二校ずつ（4人ずつ）の2グループに分かれて意見交換を行った後に、全体で意見交換
- ・学校をきれいにしたいという会話の流れから高校のトイレの視察を行った

@高校生の活動の振り返り

- ・小中学生の発表に対するリアクションはとてもよかった
- ・狭山中学校区の意見交流の後半は、各学校に高校生がアドバイザーとなりさらに深く話し合っていたところがよかった

@対応の課題として

- ・子どもたちの小さい声もひろう
- ・学校名ではなく生徒名で呼んであげてほしい
- ・発表のしやすさや発表者、聞き手の表情にも気を配る
- ・司会・記録・気を配る人などに役割を分けていてもいいが、全員ができるほうがベスト
- ・高校生が固まって座ると声を拾いにくいし、サポートしにくいので始めから分かれて座る
- ・身近な相談者となってあげてほしい
- ・発表者へのアドバイスを適切に行う（資料の見にくさの改善など）伝える力の育成

@システムの課題として

- ・各学校の提出資料は本部にもほしい
- ・ホワイトボードやフリーボードか何かがあると良かったかも

終了予定 15:30 頃

15:30 片付け 再集合 トイレ休憩

15:37～ 交流会報告 マイクで発表

@第3中学校校区

- ・あいさつ、ゴミ、公園を増やす、タブレットのこと、公園、予算などがテーマ。
- ・高校生にバトンタッチ⇨各小学校でゴミと挨拶を組み合わせたりするなどの話ができました。

@狭山中学校区

- ・室内で遊べる場所をつくりたい いつでも遊べる お金と場所が必要
- ・ポイ捨てされたゴミが多い、みんなが入れたくなるゴミ箱 ⇨ 実現するにはどうしたらいいか考えたい。ゴミ箱を増やす。
- ・狭山の道には照明が少ないなどがテーマ

@南中学校区

- ・少子高齢化について 地域での交流の場 見守ってもらえるというメリット
- ・大阪狭山市に住みたいと思ってもらえるように 学校をきれいにする
- ・公園のゴミ捨て場をきれいにしたり、雑草をかる

連 絡

- ・著作権のお話（撮影したものが放映される可能性があるとのこと）
- ・9月11日 15:45～17:00に第二回

第3回 議事録（9月3日）

1、9月11日に向けて

・どうして？→・根拠は？→・こういうときはどうする ⇒小学3年生～中学生に楽しく成長するステップ作り

市教委からの説明

13:00～校区ごとにわかれて前回の雰囲気の共有

10月10日 原稿締め切り 11月16日 本番

16:55～分かれて討議

@第3中学校校区

- ・1テーブル高校生対面式
- ・大阪狭山市に大きい公園が必要かどうか
- ・混んでいて、十分に遊べない？
- ・資料として整っているかどうか

@狭山中学校校区

- ・3テーブル 学校ごとに分かれて
- ・近いかも（パーソナルスペース）
- ・発表に対して褒めていた

@南中校区

- ・2テーブルに分かれて
- ・つつこみが足りない
- ・当日は大人と答弁しないといけないので、つつこんであげてその内容を一緒に考えてあげる
- ・水分補給など自由にしながらでいいという声掛けも必要（大人の会議でも飲み物や軽食はある）
- ・狭山の生徒の実力的には個別面談がベスト（家庭教師感覚）

2、交流発表

@南校区

- ・地域と避難訓練 大掃除 幼稚園小中の連合スポーツ大会
- ・シゲキックスから体操を学ぶ（総合体育館） ゴミ拾い大会をゲーム形式で行いたい

@狭山校区

- ・おとなの人からの質問に考えた
- ・人が来なかったら→ちらしとかを配る
- ・看板を立てる場所がなかったら→今ある公園などに
- ・作るお金がなかったら→今ある建物に付け足す

@北小学校

- ・ごみ問題を解決する
- ・上限7万円まで市が出してゴミ箱を作る

@狭山中

- ・街灯を増やす →家で明かりをつけてもらう→具体的には？
- ・ゴミ箱を増やす→ポイ捨てをなくす→ 公共施設にゴミ箱を置く。捨てることに抵抗感をもってもらう

@第3中校区

- ・あいさつを増やす → こどもから挨拶しても大人が返してくれない
- ・ゴミ拾いイベントのゲーム
- ・ランドセルが重いので教科書などをすべてタブレットに



Ⅳ、先行実施授業「大学模擬ゼミ」

1、目的

本校が高大連携を結んでいる大学やその他の大学からいただいたテーマに関して問いを立てそれを深めさせる。その発表を通して本校の掲げるスクールミッション・スクールポリシーにかなう生徒の育成をめざす。

2、内容

本校が高大連携を結んでいる大学とその他の大学に依頼し、各大学の本校が指定する学部から本校のスクールミッション、スクールポリシーにかなう生徒を育成するために有用な研究テーマを大学教員より提示。生徒は、それらのテーマから自分が興味のあるものを選び、問いを立て深めた上で探究活動を実施する。最終回で班ごとに発表できるよう準備を整える。大学側から教授や学生の派遣をしていただく。12月16日と2月10日については必ず教授に出席していただく。中間発表時は本校教員から問いを深めるための助言を行い、発表に備える。

3、日程

テーマ探究 令和6年12月16日・令和7年年1月20日・1月27日・2月3日
発表 令和7年2月10日

4、時程

全日 15:15～16:05

5、協力を要請する学部

桃山学院大学 …ビジネスデザイン学部・国際教養学部・法学部・社会学部
四天王寺大学 …教育学部・看護学部
大阪大谷大学 …薬学部
常磐会学園大学 …国際こども教育学部
近畿大学 …生物理工学部
大阪工業大学 …工学部
関西大学 …文学部

6、手順

①12月1週目で生徒に事前アンケートを取り、希望する講座を選択させる。期末テスト最終日に受講講座・教室を掲示する。

① 12月16日

6限終了後、教室担当教員が自分の担当する講座の大学教員を2階会議室へ

→7限開始。出欠確認後、講師紹介

→講師から簡単なテーマの解説と調べ方の手順を講義

→説明終了後、グループ分けを行う

② 1月20日

出欠確認後、テーマについてグループで調べる（適宜教員からアドバイス）

③ 1月27日

出欠確認後、各班どのような点を中心に調べているかの中間発表（適宜教員からのアドバイス）残った時間で調査の続きを行う

④ 2月3日

調査の続き。発表のためのスライド作成等

⑤ 2月10日

6限終了後、教室担当教員が自分の担当する講座の大学教員を2階会議室に迎えに行く

→7限開始。出欠確認後、講師紹介

→各班発表。発表終了後、大学教員の講評



V、先行実施授業「JICA 交流授業」

1. 昨年の振り返り

- ①講師の方を6人招待（異なる国の派遣歴）→各クラスに1人ずつ
- ②事前学習：①SDGsの説明動画視聴→グループで調べ学習
- ③JICA および講師の方の派遣先の国について調べ学習→模造紙にまとめる
- ④交流当日：6限・7限連続で実施
 - 6限目：JICA 代表の説明を ZOOM で共有
SDGs についてのワークシート
 - 7限目：講師の方の説明
（どんな国であったか、主にどんなことをしたか、何が困難であったか、など）
事前学習で調べたことを発表
- ⑤事後学習：①各クラスが1グループずつ6～8に分かれて全クラスで共有
②SDGs と JICA についての振り返りシート

2. 今年度の授業案について

- ①9月2日 JICA 代表による全体講演を行う（JICA の紹介を中心に）
↓ 各自で「自分が何らかの社会課題に関わるとしたら、どこの国で、何を、どんな風に行うか」を考える
- ②9月30日 グループ内でシェア、まとめ、入力 → JICA へ
 - *グループの作り方 A. クラス内で4～5人のグループを作る（クラス解体しない）
B. クラス内で6人程度のグループを作る（メンバーがそれぞれ違う国の教室に入る）
C. 国の希望をとって振り分けたのちグループを作る
- ③10月28日 講師の方と交流
- ④11月11日 学んだことを踏まえてグループで調べ&考え&まとめ
- ⑤11月18日 グループごとに発表

3. 実施要項

I 目的

JICA の活動の『青年海外協力隊』を経験した講師の方の話を聞き、質疑などの交流を通して海外情勢や支援活動についての知見を深める

II 日時

10月28日（月） 6限目：13:50～14:35 7限目：14:45～15:30 （当日は避難訓練のため45分授業）

III 場所と講師割り当て

	講師（派遣国	現地での職種	現在の職業）
①2F東教室	A	（タンザニア	青少年活動 助産師）
②3-1教室	B	（ザンビア	コミュニティ開発 管理栄養士）
③3-2教室	C	（ジンバブエ	コンピュータ技術 国際協力関連の仕事を検討中）
④3-3教室	D	（ベトナム	マーケティング 経営者）
⑤2F中教室	E	（ベトナム	陶磁器 陶芸作家・デザイナー・日本語教師）
⑥3-4教室	F	（インド	日本語教育 JICA）
⑦3-5教室	G	（ブラジル	野球 日本と南米を野球と教育で繋ぐコネクター）
⑧3-6教室	H	（ブータン	野菜栽培 就活中）
⑨2F西教室	I	（バリーズ	PC インストラクター JICA）
⑩LAN教室	J	（ウルグアイ	看護師 看護専門学校教員）

*生徒は6限目と7限目に1教室ずつ振り分けられ、各自で移動する

*講師の方には6限目と7限目は同じ内容での講義

IV 事前準備

9月30日(月) 探究の時間にワークシート記入 『世界のどんな課題に貢献できそうか探してみる』

JICAのHPで職種名や派遣国・要請内容を見ながら①～④に答える

①どこの国で ②どんな社会課題に対して

③どんな得意を使って、どんなふうに貢献できそうか ④国・職種を選んだ理由

10名の講師から「話を聞いてみたい」方を第4希望まで選ぶ→2人に調整

10月17日(木) 学年団打ち合わせ

18日(金) 話を聞く講師の方と移動先教室を発表(教室掲示)

25日(金) 担任の先生から当日の動きについて説明(プリント用意) ワークシート配付

V 当日(10月28日)の動き

13:20 講師の方が学校に到着→控室に案内・準備 管理職からの挨拶

東・中・LANは早めに教室に行ってApple TVの接続確認

13:40 放送で1回目の教室移動を指示

各教室の担当者は控室(会議室)に講師の方を迎えに行く

→教室でPCの準備(Apple TV接続、HDMIケーブルなど)

座席表貼り出し(1回目&2回目)

13:50 6限目開始 担当の先生は出欠をチェックして、冒頭で講師の方の紹介をお願いします

14:35 6限目終了 放送で2回目の教室移動を指示

14:45 7限目開始 担当の先生は出欠をチェックして、冒頭で再度講師の方の紹介をお願いします

15:30 7限目終了 担当の先生は講師の方の片づけが終わったら控室に案内してください

会議室での対応

避難訓練終了後 終礼時にワークシートを回収

VI 当日の教室分担(敬称略)

*3-4教室には当日机と椅子を1セット補充

教室	担当教員	国	講師	1回目人数	2回目人数
2F東		タンザニア		24	24
3-1		ザンビア		13	12
3-2		ジンバブエ		16	23
3-3		ベトナム		18	19
2F中		ベトナム		16	13
3-4		インド		41	41
3-5		ベリーズ		13	9
3-6		ブータン		40	41
2F西		ブラジル		26	32
LAN		ウルグアイ		24	17

3. 生徒配付資料

①本日配付された『ワークシート』に記名し、6限目・7限目の講師名・国名を書いておく

②本プリントの右ページ<参考>を見て、移動先教室を確認しておく

◇ 10月28日(月) 6限・7限 『交流学习』

- ① 5 限目が終了次第、本日配付した『ワークシート』と筆記用具を持って指定された 6 限目の教室へ移動する（自教室の机上に私物を置いたままにしないように）
- ② 移動先教室に座席表を掲示しているので指定された席に座る（勝手な席に座ると欠時扱いになるかもしれません）
- ③ 講師の方の話を聞きながら、『ワークシート』にメモを取る
- ④ 6 限目が終了したら、7 限目の教室へ移動する（移動後は②③に同じ）
- ⑤ 7 限目が終了したら HR 教室に戻る
- ⑥ 『ワークシート』の回収については、担任の先生の指示に従ってください
（生徒向けアナウンス）

◇ 11月11日(月) 7限 『まとめる』

②発表時間の目安は4～5分。この枠内に収まるように考える

◇11月18日(月) 7限 『共有する』

②発表を聞きながら『ワークシート』にメモをとる。

JICA 特別講座

世界を通じて、自分を知る

－第2回－

3年（ ）組 氏名（ ）

【ワーク①】

世界のどんな課題に貢献できそうか探してみる

下記リンクにアクセスし、自分は ①どの国で ②どんな職種で ③どんな貢献ができそうかをポイントに考えながら、行ってみたい案件の一つ選んで、理由と共に教えてください。

JICA海外協力隊・職種一覧
<https://www.jocv-info.jica.go.jp/jv/?m=BList>



1. 気になる職種をクリックする

☐ 計画・行政

- ▶ (A101) コミュニティ開発: 88件
- ▶ (A102) コーヒー: 2件
- ▶ (A203) 交通安全: 5件
- ▶ (A204) 防災・災害対策: 18件
- ▶ (A231) 統計: 3件
- ▶ (A241) コンピュータ技術: 58件

2. 国や要領内容などを読み、さらに気になるものを選ぶ

※ 資格条件については今回は気にしないで大丈夫

国名・国別区分	職種	国名・国別区分	職種	国名・国別区分	職種	国名・国別区分	職種	国名・国別区分	職種
▶ 中国	交通安全	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発
▶ 中国	交通安全	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発
▶ 中国	交通安全	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発
▶ 中国	交通安全	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発	カンボジア	コミュニティ開発



X 大学模擬ゼミ実施後アンケート

三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社高校魅力化評価システムによる本校の「総合的な探究の時間」2年次における「大学模擬ゼミ」実施後の生徒の取組と今後の活動に向けて考察をおこなった。(令和7年2月実施)

1.総括表

5つの側面について、領域別に肯定的回答割合を示しています。

	主体性	協働性	探究性	社会性
①学習活動	46.3% 46.3%	77.9%	67.6%	38.9% 38.9%
②学習環境	86.5%	72.7%	80.9%	59.6%
③自己認識	69.7%	82.6%	66.3%	58.4%
④行動実績	69.3%	74.0%	61.8%	36.5% 36.5%
⑤ウェルビーイング	75.2%	83.6%	71.8%	58.8%

2.強み・伸びしろ

各側面に含まれる指標のうち、もっとも肯定的回答割合が高い指標(強み)ともっとも肯定的回答割合が低い指標(伸びしろ)を示しています。
※肯定的回答率が同じ複数の指標がある場合、設問番号が最も小さいものが表示されます。結果の詳細は「レポート(生徒)」にてご確認ください。

	強み		伸びしろ	
①学習活動	7.グループで協力しながら学習や調べものを行う	87.8%	6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	31.8%
②学習環境	35.周りの大人は、自分に関わることにについて自分で決めることを尊重してくれる	89.2%	34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	50.7%
③自己認識	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	91.9%	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	42.6%
④行動実績	71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	77.0%	70.地域社会などでボランティア活動に参加した	35.8%
⑤ウェルビーイング	66.この学校に入ってよかったと思う	86.5%	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	48.6%

①から⑤の側面における総括について、協働性・探究性については過半数の肯定的な評価を得ている一方、学習活動における生徒の主体性・社会性について肯定的な回答はそれぞれ46.3%、38.9%、行動実績における社会性は36.5%であった。

①から⑤の側面における強み・伸びしろについて、生徒の価値観を尊重し、生徒同士の活動は活発なことが分かる一方で、学校外における活動に対する伸びしろを提案されている。探究学習を推進する中で、地域との連携を更に深めていくためにも生徒の校外における活動内容を充実させていく必要がある。

JICA 交流やフィールドワーク学習、地域自治体における連携活動をどの学年で実施していく必要があるかを次年度検討する。

同時に地域と連携するためにコーディネーターの役割について再検討をおこなうとともに、将来継続していくための組織体制の構築が急務である。

XI 探究学習成果発表会

1、日 時 令和7年3月27日(木)

- ・発表会 13:30～14:45
- ・委員会会議 15:00～16:10

2、場 所 大阪狭山市 SAYAKA ホール 小ホール 及び 大会議室

3、時 程

- ・26日(水) リハーサル (SAYAKA ホール小ホール)
- ・27日(木) 10:20～13:20 文化部フェスタ

4、発表会 次第

1、校長による開会挨拶

2、大阪府教育庁 教育振興室 高等学校課 課長挨拶

3、44期2年生による 総合的な探究の時間「大学模擬ゼミ」 成果発表

- ・生物理工学 「ゲノム研究でわかること」
- ・教育学 「地域ならではの資源をどう学校の理科教育に取り込めるか」
- ・国際教養学 「イスラム教徒と共生するにはどうしたらいいか」
- ・看護学 「アドバンスケアプランニングを自分や身近な人が活用するにはどうしたらいいか」
- ・工学 「熱機関について」

4、運営指導委員会 委員 大阪公立大学 池田教授より講評及び指導助言

5、大阪府教育庁 教育振興室 室長挨拶

* 発表会終了後 コンソーシアム会議及び運営指導委員会を大会議室にて開催



- ・ 生物理工学 「ゲノム研究でわかること」

ゲノム研究でわかること

【ゲノムとは】

DNAのすべての遺伝情報のこと

写真はイメージです。

【ゲノム解析とは】

多くの生物の遺伝情報を解明すること。

【ゲノム解析でできること】

- ・ 体質や遺伝性の病気のリスクを把握し、予防することができる。
- ・ 薬の開発
- ・ がんの個別化医療
- ・ 品種改良

【ゲノム創薬】

ゲノム情報のデータベースを活用して、薬を作ること。

メリット

- ・ ターゲットを絞り込んで開発でき、短い期間で作ることができる。
- ・ 副作用の低い薬を開発できる。

【個別化医療】

患者さんの体質や病気の特徴に合わせて治療すること

メリット

- ・ 副作用リスクを減らす
- ・ 効果が期待される治療を選べる

品種改良：もともと持っている遺伝子に突然変異を起こすもの

実用化された品種

【GABA高蓄積トマト】

【可食部増量マダイ】

【高成長トラフグ】

GABAの生成に関わる遺伝子

ミオスタチン遺伝子

レプティン受容体遺伝子

【問題点】

- ・ 倫理的・プライバシーの問題
- ・ データ管理・セキュリティの問題
- ・ 費用とアクセスの問題

【対策】

- ・ 遺伝情報保護のための法的規制の強化
- ・ 匿名化・データ保護技術の導入
- ・ インフォームド・コンセントの徹底

- 教育学

狭山高校
地域ならではの資源をどう自校の
理科教育、科学教育
に取り込めていくか

現代の教育の課題点

- ・規範意識の低さ
- ・自然体験の促進

■ パソコンや携帯電話等を使った
いじめの認知件数

年	認知件数
2013	10,000
14	11,000
15	12,000
16	13,000
17	14,000
18	15,000
19	16,000
20	17,000
21	18,000
22	19,000

(注) 1. 小・中・高・大・短大・特別支援学校の合計 2. 19年度は文科省が「児童生徒のいじめ」の調査対象を「児童生徒のいじめ」から「児童生徒のいじめ」に変更したため、19年度のデータは18年度のデータと異なる。

手がかり1：尻尾が取れる！？

野生下で、天敵（カラス、くま）に襲わ
れた時に尻尾を切り、身代わりとする。

手がかり2：口 歯

左右の頬袋に3つずつ
貯めこむことができる

1年に数回 歯が生え変わると
いう不思議な特徴を持ってい
ます。

手がかり3：ジグザグに走る 前足と後ろ足の指

捕食者に出くわせば、左右に素早く方向
を変えながら逃げるから食われにくい。

道路を走りながら横断しようとして、車
に轢かれることもことがある。

正体とは！？

リス！

大阪狭山市ならではの
生き物はリスです。

リス園

全国でリスに餌をあげられるリス園は6つ！

その中で、北海道1つ、東京1つ、岐阜3つ、西日本では大阪の1つだけ！

大阪のリス園は大阪狭山市にあるふれあいの里、リス園

現代の教育の課題点

- ・規範意識の低さ
- ・自然体験の促進

■ パソコンや携帯電話等を使った
いじめの認知件数

年	認知件数
2013	10,000
14	11,000
15	12,000
16	13,000
17	14,000
18	15,000
19	16,000
20	17,000
21	18,000
22	19,000

(注) 1. 小・中・高・大・短大・特別支援学校の合計 2. 19年度は文科省が「児童生徒のいじめ」の調査対象を「児童生徒のいじめ」から「児童生徒のいじめ」に変更したため、19年度のデータは18年度のデータと異なる。

教育

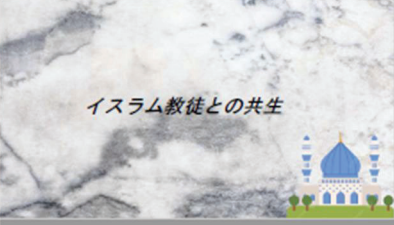
授業

- ・西日本で唯一のリス園があるので、実際に生き生きとした生態系を観察する
- ・動画などを見るより身近に体験できる
- ・生物への興味が高まる可能性もある

社会

- ・自然体験をできる

- 国際教養学 「イスラム教徒と共生するにはどうしたらいいか」



イスラム教徒との共生

イスラム教について



特徴：断食や祈禱という習慣がある

20億人

イスラム教は商売人が作った宗教！



相互の信義、誠、絶対に嘘をつかない、約束したことは必ずこれを守って履行する
これが大切！

聖なる領域

区別なし！

異なる領域

衣食住すべてにイスラム教が関係する

● **イスラム教徒の祈禱**

愛でられ徳を得る

神に何かを期待せず、称える！



1日5回

アッラー

祈禱室 Prayer Room
祈禱室 / 祈禱所 / 祈禱室 (Prayer Room)

現在では多様化が進み、祈禱をしない教徒も



ヒジャブ (Hijab)



ブルカ (Burka)



ニカブ (Niqab)



トローブ (Thobe)

※トローブはアラブ人だけ

Quinn ☆ジ

ヴェールは何歳ぐらいからつけていくのが多いでしょう？

- ①産まれて数日後から
- ②小学生の頃から
- ③成人 (18歳) から
- ④婚姻後から

ハラール食品って何

イスラム法に則ってたべてもOKなもの

ハラール＝イスラム教徒だけの食べ物？

健康志向の人にも注目されている

例えば...



食べてはいけないもの

ハラール食品ではないハラムと言われる食べ物はないか



じゃあノンアルコールはハラール食品なの？

ハラール食品なそうです



他にも...

ハラール食品が見分けるには...

ハラールのハラムが判断できないもの

⇒ **シヨバハ**

ハラール食品かどうか見分けるときはハラール認証のマークがあるか確認しよう



イスラム教徒の土葬問題



主な原因と案

- ・地域住民の、馴染みの薄い土葬やイスラム教文化に対する抵抗感
- ・土葬による土壌や飲料水の汚染、風評被害の心配

ムスリム側は汚染の心配がない土地を利用し、住民が安心できるような科学的根拠を示す。

互いに話し合い、考えを相互理解する。
妥協できるポイントを見つける！

まとめ、感想

- ・ムスリムの土葬問題は近隣住民の不安や抵抗感が主な課題なので、基本的な心構えについて考えた。
- ・調べていく中で、常日頃からイスラム教に限らず異文化について知り、相互理解をするという意識を育んでおく必要を感じた。

を認める

- 看護学 「アドバンスケアプランニングを自分や身近な人が活用するにはどうしたらいいか」



アドバンス・ケア・プランニング

そのような時
あなたなら
どうしますか??

アドバンス・ケア・プランニングとは

もしものときに備える会議

万が一に備えて、自分や家族の望みやどんな医療ケアを望んでいるかを話し合う。

〈例〉突然死、交通事故死、末期がん死



【具体的な内容】

- どんなお葬式にするか
- 最後に何を食いたいのか
- お墓はどうするか
- 人工呼吸器を使うか
- お金はどのようにするか



【アドバンス・ケア・プランニング 事例】 (2020年5月)

【Aさんのケース】80代の女性

背景：長年心臓病を患い、入院を繰り返す
きっかけ：主治医の提議でACPを開始
本人の考え：「自宅で家族に囲まれて生活したい
大切なことは伝えられるうちに伝えておくこと」
【話し合いのポイント】家族・医療従事者の話し合い
治療方針：延命よりも痛みを和らげるケア
生活の場所：最終は病院ではなく自宅を希望
家族への思い：子どもたちに負担をかけたくない



ACPを通じて得られたもの



Aさんは安心して療養生活を送る事ができた
家族：本人の意向を聞いていたことで迷わずに判断することができた
医療者：具体的な方針により適切なケアができた

【ACPの重要性】
本人：自分らしい最期を迎えるための準備
家族：精神的な負担を軽減
医療者：患者に寄り添ったケアを提供

アドバンス・ケア・プランニングを活用しよう！

bad

もしものときに、..

あなたの気持ちを伝えたい人へ

good



普及が難しいのはなぜ??

- ・死に近づいている人は話し合いを避ける
- ・早すぎても遅すぎても難しい
- ・実際の医療への知識不足



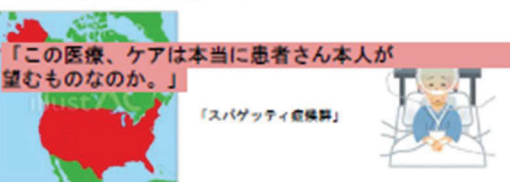
理由	割合
死に近づいている人は話し合いを避ける	51.1%
早すぎても遅すぎても難しい	27.6%
実際の医療への知識不足	26.9%

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の歴史

1990年代、本人が望まない過度な延命治療

「この医療、ケアは本当に患者さん本人が望むものなのか。」

「スバゲッティ症候群」



私達にできること

授業を通して

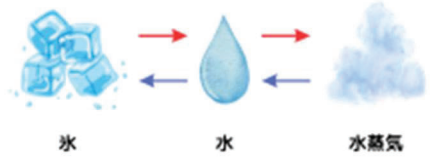
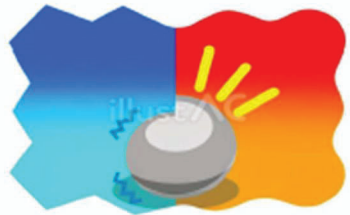
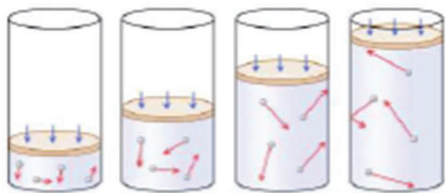
人生会議とは??

自分だったら?

自分にできることは?



- 工学 「熱機関について」

温度に依存して 可逆的に変化する物理現象を 利用した熱機関を作る 参考文献： https://www.weblio.jp/content/%E7%99%A9%E7%9C%86%E7%B7%BE%E8%B1%A1 https://www.try-it.jp/chapters-9234/sections-9266/lessons-9271/	可逆的とは？ 
○温度に依存して可逆的に 変化する物理現象 ・水の相転移 	・金属の膨張・収縮 
○シャルルの法則 (気圧一定での温度と体積の関係) 	
高出力化するために・・・	1. 熱源の温度差を大きくする 2. 装置の素材をアルミニウムにする 
最後に・・・	

XII 事業完了報告書

事業完了報告説明書

1. 事業の実績

(1) 事業の実施日程

事業項目	実施日程（令和6年6月7日～令和7年3月31日）											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カリキュラムや教育方法等の検討・開発・実施												
普通科推進 PT 会議	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
先行実施授業					●	●		●	●	●	●	●
先進指定校視察						●	●		●			
フィールドワーク				●		●	●					
関係機関との連携協力体制の構築・維持												
運営指導委員会				●						●		●
コンソーシアム委員会				●						●		●
コーディネーター												
地域連携コーディネーター （田中氏）				●	●	●	●	●	●	●	●	●
新学科設置に向けた説明会等の実施												
PTA 総会（保護者向け）		●										
学校 HP での情報発信										●	●	●
成果発表・成果普及												
探究発表会												●
学校 HP での情報発信												●
報告書の作成												●
成果検証												
学校教育自己診断									●	●		

(2) 事業の実績の説明

① カリキュラムの検討内容

■普通科改革推進 PT 会議

- ・実施概要（今年度の取組）
 - 1、新学科における教育課程の策定
 - 2、新学科におけるカリキュラムの先行実施と振り返り
 - 3、探究活動成果発表会の企画・運営
 - 4、新学科における「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン（案）」及び「将来構想マップ（案）」の策定
 - 5、教職員向け事業の説明と研修の実施
 - 6、その他、事業に関する事項についての検討
- ・構成員
校長・教頭・首席（主幹教諭）・教務部長・グローバルハイスクール委員長・委嘱教員
- ・会議日程及び内容（毎週火曜日実施）

日程	内容
4月15日（月） 4月23日（火）	・令和6年度のPT活動計画の策定 ・事業目的の生徒像とスクールミッション・ポリシーとの整合性について検討
5月7日（火） 5月14日（火）	・教育課程の策定に向けた方向性の確定 ・本年度実施する先行的授業の企画検討
6月18日（火） 6月25日（火）	・先行実施する「深学探究基礎（大学魅力発見探究）」の実施検討 ・「総合的な探究の時間」新カリキュラムの目的と方向性についての整理
7月11日（木）	・先行実施する「フィールドワーク」の検討
9月3日（火） 9月17日（火） 9月24日（火）	・大阪狭山市との連携した取組の実施に向けた検討 ・先進校視察に向けた事前打ち合わせ ・3月探究活動成果発表会について
10月1日（火） 10月24日（木）	・狭山高校グランドデザイン（案）・将来構想マップ（案）の策定 ・本年度実施する先行実施授業等の企画・検討
11月12日（火） 11月19日（火） 11月26日（火）	・先進校視察の報告 ・本年度実施する先行実施授業等の企画・検討 ・コンテンツの内容充実のためのオープン会議の実施の検討
12月3日（火） 12月17日（火）	・新教育課程に係る検討内容の共有と検討 ・狭山高校グランドデザイン（案）の公表について
1月21日（火） 1月28日（火）	・次年度に向けた組織改編、教育課程の再検討 ・次年度教員研修計画についての検討
2月4日（火） 2月18日（火）	・探究活動成果発表会の準備 ・新カリキュラムの検討
3月4日（火）	・次年度の計画（スケジュール、研修、アンケート等） ・探究活動成果発表会について

■先行実施授業

・実施概要（今年度の取組）

①「ビブリオバトル」（１年）

生徒の自己表現能力及びプレゼンテーション能力の育成を目的として、自身が感銘を受けた書籍について、口頭発表を行い、生徒同士による相互評価を行い、クラス代表を決定し、クラス代表の中から、学年のビブリオチャンピオンを決定する取組を実施した。

②「深学探究基礎講座①（大学魅力発見探究）」（１年）

生徒の社会課題の発見や、自己と社会のつながりの発見・調査を目的に、大学オープンキャンパスに生徒が参加し、授業内容、施設整備など、大学の特色や魅力についてレポートにまとめ、その後同じ大学を調べた生徒をグループ化して魅力を検討する取組を実施した。検討した結果については、スライドにまとめて発表し、生徒同士で相互評価を行った。

③「JICA 関西交流」（３年）

海外の国々の文化と日本文化との違いを比較することを通じて社会性（グローバル意識）を向上することを目的に、JICA 関西で活動する活動員から海外での生活や文化を紹介いただき、日本との比較し、スライドにまとめて発表を行った。

④「深学探究基礎講座②（大学模擬ゼミ）」（２年）

学問分野ごとに大学教員を招聘し、生徒が将来学びたいと考えている学問についてグループに編成したゼミ形式の探究学習を実施し、その成果をスライドにまとめて発表し、生徒同士で相互評価を行った。発表にあたっては、大学教員から評価及び指導助言をいただき、生徒へのフィードバックとした。

・授業実績

日程	取組	内容
9 月	ビブリオバトル	代表者による書評のプレゼンコンテスト
8 ～ 1 月	深学探究基礎講座①	オープンキャンパスの報告をプレゼン形式で発表
11 月	JICA 関西交流	JICA 関西の活動員から外国の生活文化を学ぶ
1 ～ 3 月	深学探究基礎講座②	大学教員の指導による課題探究活動

■先進校視察

・視察日程及び内容

日程	視察校	内容
10 月 23 日（水）	兵庫県立柏原高等学校	普通科改革事業の運営に関する情報の共有
10 月 25 日（金）	浜松学芸高等学校	探究創造科地域創造コースで実践する取組について視察、情報の共有
10 月 29 日（火）	福岡県立八幡高等学校	「知の探究」授業視察及び情報の共有
11 月 22 日（金）	京都市立開建高等学校	探究活動中間発表会参加
1 月 26 日（日）	伊丹市立伊丹高等学校	事業における探究活動発表会参加

※ 視察先との日程調整等の関係により、当初の計画から、視察先及び視察回数を次のとおり変更した。

視察先：（計画当初）兵庫県立淡路三原高校 → （変更後）伊丹市立伊丹高校

回数：（計画当初）各校2回 → （変更後）各校1回

■フィールドワーク

- ・日程 7月：担当教員、カリキュラム構築指導アドバイザーとの打ち合わせ
9月：授業実施案策定
10月：2年「地理総合」の授業にて実施
(事前授業・フィールド散策・振り返り)
- ・講師 丸山 賢（元大阪府教員）
- ・実施内容 大阪狭山市についての知見を広げ、フィールドワークを通じて地域を多面的・多角的に考察できることを目的とする。地名の由来とともに地理的な要因を学ぶ事前学習を踏まえ、カリキュラム構築指導アドバイザーと協力して狭山高校周辺の特徴ある土地や史跡、施設をめぐり、由来や歴史的な意味を学ぶ取組を実施した。

＜成果と課題及び次年度の計画への反映方針＞

新学科における探究学習プログラムの実施に向け、1年生での「ビブリオバトル」や「深学探究基礎講座①」において、自己やグループの考えをまとめて発表するとともに、生徒同士で相互に評価し合うことでプレゼンテーション能力や課題発見力の育成を図ることができた。また探究サイクルの実践と、協働的な学びを通じ、課題の発見と解決・提案に必要な知識及び技能を身につけ、探究活動の意義や価値に気づく「やってみる・身につける」の探究活動として効果があると考えられる。

一方で、探究活動を学年全体で指導していくための準備及び教員への指導方法の周知に時間を要した。また、評価については、取組を通じて意図した生徒の資質・能力が図られているのかを検証することができなかった。

そのため、次年度は、生徒向けアンケートをはじめ、ルーブリックを活用するなど、取組の実施による生徒の変容を図るための指導と評価について研究を進める。

② 管理機関による事業の実施体制や管理方法

(1) 運営指導委員会の設置

今年度は、運営指導委員会会議を3回開催し、本事業における外部機関との連携協力体制の構築や、先行実施授業の内容、「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン（案）」の策定等について報告し、各委員の専門的知見から、指導助言をいただいた。

[運営指導委員会の体制]

氏名	所属
池田 文人	大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授
柴 浩司	近畿大学 教授
岩井 晃子	大阪大谷大学 教育学部 教職教育センター長

牧野 篤	東京大学大学院 教育学研究科 教授
福田 準一	大阪狭山市公民館 館長
トラン ティ 美佳	大阪府国際交流財団 国際協力推進員

※ 計画当初、運営指導委員として申請していた大阪公立大学の西田正宏教授については、コンソーシアム運営委員会会議に参加することとなったため、池田文人教授に変更した。

[日程・内容]

日程	出席者	内容
令和6年7月24日(水)	・西田 正宏 ・柴 浩司 ・岩井 晃子 ・福田 準一 ・トラン ティ 美佳 (オンライン)	・狭山高校の取組について ・普通科改革支援事業について ・普通科改革PTにおける本年度の実施計画及び進捗状況について ・第1回コンソーシアム運営委員会会議の報告
令和7年1月17日(金)	・池田 文人 ・柴 浩司 ・岩井 晃子 ・福田 準一 ・トラン ティ 美佳 (オンライン)	・事業の進捗状況について ・グランドデザイン(案)について ・カリキュラム編成(案)について ・コーディネーターより報告 ・先進指定校の視察報告
令和7年3月27日(木)	・池田 文人 ・福田 準一 ・トラン ティ 美佳	・探究学習成果発表会 講評 ・令和6年度事業に関する報告 ・令和7年度に向けての方向性

[主な指導助言]

- ・それぞれのミッションがどこまで目標として達成したのかをコンピテンシーでアセスメントしていくことが重要である。
- ・ロールモデルを提示するなど、キャリア形成が事業の見せ方として重要である。狭山高校を卒業してどのような人になって欲しいのかを地域と共有することで、地域から愛されることにつながるのではないかな。
- ・新学科において、1年次に探究の時間を設定したことは良い。様々な人との出会いの機会を持つことが大事である。その一方で単なるイベントにならず、探究が深まるように計画してもらいたい。

(2) 担当者会議の運営

今年度は、府教育庁と狭山高校、春日丘高校(令和8年度より学際領域に関する学科に改編予定)の3者で、担当者会議を2回実施した。会議では、狭山高校から、本事業における先行実施授業等の取組の成果と課題等について報告を行うとともに、新たな学科でのカリキュラムの構

築に向け、外部機関との連携や校内体制の整備等について両校で情報交換を行った。

[日程・内容]

日程	出席者	内容
第1回： 令和6年12月24日（金）	・府立狭山高校 2名 ・府立春日丘高校 2名 ・府教育庁 3名	（1）総合的な探究の時間及び新 学科において新たに開設する 学校設定教科・科目について （2）外部機関との連携について （3）校内体制の構築について （4）その他・情報共有等
第2回： 令和7年3月24日（月）	・府立狭山高校 2名 ・府立春日丘高校 2名 ・府教育庁 2名	（1）総合的な探究の時間及び新 学科において新たに開設する 学校設定教科・科目について （2）令和7年度に向けた校内の組織 体制について （3）令和7年度に実施予定の探究的 な取組について （4）その他・情報共有等

（3）定期的な訪問

本事業の実施に係る管理・指導・支援については、府教育庁の担当者が、狭山高校に月1回程度訪問し、事業の進捗状況の確認や取組を進める上での諸課題の解決に向けた協議等を行うとともに、新学科に向けた先行実施授業等を視察し、授業担当者等に指導・助言を行った。

<今年度の課題及び次年度の計画への反映方針>

- ・今年度は、先行実施授業等の取組を運営指導委員に直接見学いただく機会をもつことができなかった。また、生徒の資質・能力や意識の変容を評価したものやその変化が見て取れるものを提示できなかった。それらを委員に提示することで、各委員の専門的な知見から事業全体の評価をいただけるよう計画的な取組の実施・評価に努める。
- ・担当者会議については、今年度は本事業の実施初年度であることから、2回とも参加校は狭山高校及び学科改編を予定する春日丘高校の2校の参加に留まった。次年度は、狭山高校が普通科における探究学習のモデル校としての役割を担えるよう、会議日程及び内容を検討し、他の普通科設置校の担当者を招いた会議を実施する。

③ 高等学校における事業の実施体制や管理方法について

I 校内組織の改編

- ・本事業の取組の企画・実践・検証を担う普通科改革推進プロジェクトチームを4月に設置し、

プロジェクト会議を原則毎週 1 回実施した。

- ・新たな学科におけるスクールミッションや育成すべき資質・能力、学校運営体制をビジュアル資料として示す「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン（案）」を策定し、本事業の理念やめざすべき方向性について、校内で共有した。
- ・新たな学科の広報を担う広報委員会の設置を決定した。

II コンソーシアム運営委員会の開催

- ・コンソーシアム運営委員会会議を以下の日程で 3 回開催した。

第 1 回 令和 6 年 7 月 23 日（火）

第 2 回 令和 7 年 1 月 15 日（水）

第 3 回 令和 7 年 3 月 27 日（木）

- ※ コンソーシアム運営委員会の出席者及び内容については、⑤コンソーシアムの体制及び取組に記載

- ・コンソーシアム運営委員会では、探究活動で活用できるリソース（施設・人材など）の情報交換や「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン（案）」に対する助言に加え、コンソーシアム機関と協働した今年度の取組に関する報告及び次年度の取組等について、打ち合わせを行った。

III 学校運営協議会

- ・学校運営協議会を以下の日程で 3 回開催した。

日程	内容
令和 6 年 6 月 21 日（金）	・事業計画の説明と方向性についての意見の共有
令和 6 年 11 月 15 日（金）	・現在の進捗と今後の計画について報告
令和 7 年 2 月 7 日（金）	・「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン（案）」の提示と次年度に向けての意見の共有

- ・学校運営協議会では、学校教育自己診断等の分析に関する報告及び今後の取組改善に関する助言を受けるとともに、新たな学科における取組について報告した。

<成果と課題及び次年度の計画への反映方針>

本年度は、校内の新たな組織として普通科改革推進 PT を立ち上げ、定例で会議を実施することができた。また、PT において策定した「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン（案）」を、コンソーシアム会議に示すことで、本事業を通して育成をめざす資質・能力と取組の関連、組織体制について共通理解を持つことができた。

次年度は、「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン（案）」に基づき、コンソーシアム機関と協働した探究学習の実現に努める。

④ 運営指導委員会の体制および取組

- ・運営指導委員会については、以下の体制で、運営指導委員会会議を3回実施した。

[運営指導委員会の体制] <再掲>

氏名	所属
池田 文人	大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授
柴 浩司	近畿大学 教授
岩井 晃子	大阪大谷大学 教育学部 教職教育センター長
牧野 篤	東京大学大学院 教育学研究科 教授
福田 準一	大阪狭山市公民館 館長
トラン ティ 美佳	大阪府国際交流財団 国際協力推進員

[運営指導委員会の取組] <再掲>

日程	出席者	内容
令和6年7月24日(水)	・西田 正宏 ・柴 浩司 ・岩井 晃子 ・福田 準一 ・トラン ティ 美佳(オンライン参加)	・狭山高校の取組について ・普通科改革支援事業について ・普通科改革PTにおける本年度の実施計画及び進捗状況について ・第1回コンソーシアム運営委員会会議の報告
令和7年1月17日(金)	・池田 文人 ・柴 浩司 ・岩井 晃子 ・福田 準一 ・トラン ティ 美佳(オンライン参加)	・事業の進捗状況について ・グランドデザイン(案)について ・カリキュラム編成(案)について ・コーディネーターより報告 ・先進指定校の視察報告
令和7年3月27日(木)	・池田 文人 ・福田 準一 ・トラン ティ 美佳	・探究学習成果発表会 講評 ・令和6年度事業に関する報告 ・令和7年度に向けての確認

<成果と課題及び次年度の計画への反映方針>

今年度は、普通科改革推進PTが作成した「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン(案)」及び「将来構想マップ(案)」を示し、狭山高校として育成をめざす生徒像及び身に付けさせたい資質・能力等について、指導・助言を受けることができた。

次年度は、新学科に向けて先行実施する取組や授業等の評価に加え、探究活動に係るアンケートやルーブリック等の評価方法の研究に向け、各委員の専門的な立場から指導・助言をいただけるよう努める。

⑤ コンソーシアムの体制および取組

- ・コンソーシアムについては、以下の体制で、コンソーシアム運営委員会会議を3回実施した。

[コンソーシアムの体制]

大阪公立大学、近畿大学、大阪狭山市、大阪狭山市教育委員会、大阪狭山市商工会、一般社団法人学びのイノベーション・プラットフォーム、一般社団法人ナレッジキャピタル、株式会社三菱総合研究所

[コンソーシアムの取組]

日程	出席団体	内容
令和6年7月23日(火)	・大阪公立大学 ・近畿大学 ・大阪狭山市 ・大阪狭山市教育委員会 ・大阪狭山市商工会 ・一般社団法人ナレッジキャピタル	・コンソーシアムの役割について ・狭山高校の取組について ・普通科改革支援事業について ・普通科改革PTにおける本年度の実施計画及び進捗状況について
令和7年1月15日(水)	・大阪公立大学 ・大阪狭山市 ・大阪狭山市教育委員会 ・大阪狭山市商工会 ・一般社団法人ナレッジキャピタル	・事業の進捗状況について ・大阪府立狭山高等学校グランドデザイン(案)について ・先進指定校の視察報告 ・先行実施授業について
令和7年3月27日(木)	・大阪狭山市 ・大阪狭山市教育委員会 ・大阪狭山市商工会 ・一般社団法人ナレッジキャピタル ・三菱総合研究所	・探究学習成果発表会 講評 ・令和6年度事業に関する報告 ・令和7年度に向けての打合せ

<成果と課題及び次年度の計画への反映方針>

今年度は、普通科改革推進PTにおいて作成した「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン(案)」及び「将来構想マップ(案)」について、忌憚ない意見や助言をいただき、地域の自治体や企業等との連携の可能性について、方向性を固めることができた。

一方で、コンソーシアム機関として先行実施授業等に直接参画いただく機会を設けることができなかったため、次年度は、そうした機会を設け、コンソーシアムを活用した持続可能な探究プログラムの確立に向けて取組を進める。

⑥ コーディネーターの配置および活動内容

■勤務形態及び配置

- ・ 週2回、1日6時間勤務の非常勤職員として雇用した。
- ・ 普通科改革推進プロジェクトチーム及びグローバルハイスクール推進委員会の一員として配置。

■活動内容

- ・ 大阪狭山市及び外郭団体「狭山池まつり実行委員会」における活動の企画連絡調整。
- ・ 大阪狭山市各諸団体とのボランティア活動の企画連絡調整。
- ・ 普通科改革コーディネーターとして文部科学省主催の研修に参加。

■活動実績

月	勤務実績	主な取組事項
7月	13時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整
8月	33時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ コーディネーター研修出席 等
9月	24時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整
10月	42時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ コーディネーター研修出席 等
11月	42時間	・ 大阪狭山市との連携した取組実施に係る連絡調整
12月	48時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整
1月	39時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整
2月	33時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ コーディネーター研修、全国フォーラム参加 等
3月	36時間	・ 大阪狭山市地域諸機関との連絡調整 ・ 探究活動成果発表会に向けての連絡調整

<成果と課題及び次年度の計画への反映方針>

今年度は、コーディネーターとして、主として大阪狭山市や地域諸機関との連絡調整を行い、多様な交流の機会を実現することができた。

一方で、先行実施授業等の取組においては、企画段階からの参画が不十分であり、校内での教員との連携について課題があった。また、授業における取組においては、勤務する日程や時間等の都合で、参加できないこともあり、改善が必要である。

次年度は、探究学習の企画・立案等を担う普通科改革推進PT会議に参加できるよう調整するとともに、「総合的な探究の時間」等の授業への入り込みや教員との連絡・調整等、コーディネーターが参画できる校内の体制づくりに努める。

⑦ 新学科の設置及び設置に向けた検討状況・関係者への説明の実施状況

■管理機関

●令和6年5月

- ・大阪狭山市役所・大阪狭山市教育委員会・大阪狭山市商工会を訪問し、大阪府立狭山高等学校を令和8年度入学生から地域社会に関する学科に改編する予定であることを説明した。

●令和6年8月

- ・大阪府教育委員会会議において、大阪府立狭山高等学校を地域社会に関する学科に改編する案を発表した。
- ・中学校校長会に大阪府立狭山高等学校の学科改編について説明した。

●令和6年11月

- ・大阪府教育委員会会議において、大阪府立狭山高等学校を地域社会に関する学科に改編することを決定した。

■狭山高校

I 中学生及び地域の方への説明

- ・大阪狭山市の中学校校長等の地元関係者が参加する学校運営協議会において、学科改編の趣旨や概要について説明を行った。
- ・次年度以降の広報活動を推進していくため、新たに広報委員会を立ち上げ、企画・検討を行っている。

II 本校生徒及び保護者への説明

①本校在学生

- ・令和6年4月 始業式において令和8年度からの学科改編について説明した。
- ・令和6年8月 第2学期始業式において大阪府教育委員会会議の決定を報告した。

②学校運営協議会

- ・令和6年6月 令和6年度第1回学校運営協議会にて学科改編について説明し、意見を承った。

③保護者・PTA・後援会

- ・令和6年5月 PTA実行委員会にて役員、後援会に向けて、学科改編についての説明を行った。
- ・令和6年5月 PTA総会において保護者に向けて、学科改編についての説明を行った。

④同窓会

- ・令和7年2月 同窓会長に学科改編についての説明を行った。

<成果と課題及び次年度の計画への反映方針>

本年度11月に開催された教育委員会会議において学科改編の決定があり、地元関係者をはじめ、既存の諸団体等への説明を行った。

次年度は、学校ホームページの更新に加え、大阪府教育庁主催の学校説明会及び本校実施の説明会において、普通科改革事業の取組とめざす生徒像について、スクールミッション・ポリシー

の周知に努める。また、広報活動の実施にあたっては、学校のみならずコンソーシアム機関や運営指導委員会と連携しながら進める。

⑧ 管理機関における事業全体の成果検証、評価

今年度は、本事業に係る成果検証・評価について、以下の通り実施した。

- ① コンソーシアム運営会議（第1回：7月、第2回：1月）
- ② 運営指導委員会会議（第2回：1月、第3回：3月）
- ③ 担当学会議（第1回：12月、第2回：3月）

- ・①においては、狭山高校とコンソーシアムを構成する外部機関と連携した探究活動の実施について意見交換を実施するとともに、本事業での先行実施授業等に対して指導・助言をいただくなど、本事業でのカリキュラム開発及び指定終了後の継続した取組実施という観点から、有効的に本会議を活用できることが見込まれ、評価できる。
- ・②においては、新たな学科におけるスクールミッションや育成すべき資質・能力、学校運営体制をビジュアル資料として示す「大阪府立狭山高等学校グランドデザイン（案）」に対して、本事業での方向性や取組との整合性等について、運営指導委員それぞれの専門的知見から指導・助言をいただけたことは、評価できる。
- ・③においては、本事業に係る取組や学科改編に向けた取組の進捗状況、各校における探究学習及び外部連携等の報告や情報交換を通じて、育成をめざす資質・能力を明確化する必要性や校内の実施体制の構築について、担当者間で議論・検討できたことは、評価できる。

<今年度の課題及び次年度の計画への反映方針>

今年度は、生徒の変容や事業における取組の効果検証をコンソーシアム会議や運営指導委員会会議に諮り、指導・助言をいただくことができなかった。次年度は、先行実施授業の効果等について、生徒アンケート等をもとに生徒の変容を見取るなど、さらなる成果検証・評価に努める。

⑨ 管理機関による支援体制

（1）物的支援

新たな学科の設置に向けた教育環境の整備に係る次年度の予算として、約2,800万円を確保することができた。次年度は、以下のとおり、整備を進めていく予定。

- ・グループワーク・ディスカッション・発表・オンラインにおける交流等を実践するためのプレゼンテーションルームの設置。
- ・新たな学科において開設する学校設定教科・科目及び総合的な探究の時間での探究学習で使用する教材・教具等の調達。 など

(2) 人的支援

令和8年度からの学科改編に向けた研究開発を推進することを目的として、府独自の予算により、今年度から教員1名の加配措置を講じた。次年度は、学科改編に向けたカリキュラムの研究開発及び実施体制の構築等を目的に、教員2名の加配措置を講じる予定。

⑩ 成果普及のための取組

本事業の成果については、以下の通り、他の府立高校をはじめとした他府県の高校、地域の中学校及び地域の方々に対しても積極的に情報発信を行うことにより、成果を普及した。

- ・本校HPにおけるブログにおいて、先行実施授業をはじめ、大阪狭山市や地元公民館と連携した取組を情報発信した。
- ・大阪府立学校リーディングGIGAハイスクール事業と連携し、他の府立高校教員はもとより、地域の中学校教員や大阪狭山市教育委員会指導主事を招き、ICT機器を活用した各教科における探究的な学びの授業を公開し、授業の振り返り及び意見交換会を実施するなど、探究活動についての情報交換を行った。
 - 7月17日(水) : ICT機器を活用し意見交流させる授業展開(公共・古典)30名参加
 - 10月8日(火) : 1人1台端末を活用した探究的な授業展開(体育・化学)10名参加
 - 11月19日(火) : 電子黒板機能を活用したオンライン双方向授業(英語・日本史・古典・公共)12名参加
- ・探究活動の成果発表会を大阪狭山市文化会館「SAYAKA(さやか)ホール」で実施し、府内はもとより、地域や他府県にも公開、周知し、成果の普及に努めた。
- ・他府県の普通科改革の先進校に近隣の府立高等学校(普通科)の探究担当者とともに視察を行い、外部機関と連携した探究活動について研究した。
- ・本事業の取組及び各取組における評価、成果をまとめた研究報告書を作成し、府立高校に配付し取組を普及する。

<成果と課題及び次年度の計画への反映方針>

本年度は、公開授業や探究成果発表会の開催、研究報告の作成等を通じて、他校に対して、成果の普及に努めた。一方で、HPやSNS等を活用した積極的な情報発信については、改善していく必要がある。

次年度は、探究活動を情報発信するためHP等を充実させるとともに、新学科のパンフレットやポスター等を作成するなど成果普及に努める。

⑪ 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

(1) 本事業の継続的連携をおこなう組織体制の構築等

本事業の開始にあたり、コンソーシアム体制の継続的な構築のため、コンソーシアム機関と3年間(令和6年度～令和8年度)の連携協定を締結することができた。また、本事業を活用して普通教育を主とする学科における特色ある探究学習の教材プログラムの開発に向けては、校内で学科の改編の趣旨や探究学習推進に係る方向性等の教員研修を2回実施することにより、本事業の目標等を教員間で共通理解を図った。

加えて、⑨に記載したとおり、今年度は、府独自の予算により、教員 1 名の加配措置を講じた。次年度は、カリキュラムの研究開発や実施体制の構築等を目的に、教員 2 名の加配措置を講じる予定。コンソーシアム体制や加配教員を有効活用して、引き続き取組継続に努める。

(2) 指定終了後の取組継続について

令和 6 年 11 月に開催した教育委員会会議において、狭山高校について、「府立高等学校再編整備計画」に基づき、現在の普通科から、令和 8 年度入学生より地域社会に関する学科に改編することを正式に決定した。このことにより、指定終了後においても、取組を継続する。また、取組に必要な探究活動に係る講師謝金、交通費等については、次年度、再編整備に係る予算として、府独自の予算を関係部局と調整して確保に努める。コーディネーターの人件費については、新学科における事務職員定数加配や再編整備に係る府独自の予算の活用など、継続的な財源を関係部局と調整して確保に努める。

⑫ 他の事業との関係

大阪府の事業である大阪府立学校リーディング GIGA ハイスクール事業（令和 5 年度～令和 7 年度）及び文部科学省の高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）と連携し、ICT 機器環境を活用する探究学習の実践に取り組んでいる。

普通教室に無線環境と単焦点プロジェクターを設置し、生徒の 1 人 1 台端末を無線で接続し、端末による発表や討議を可能とした。また、会議室及び視聴覚教室等を改装し、探究討議や発表を学年単位で実施可能とする環境を整備するなど、本事業の推進に努めている。

令和6年度 文部科学省指定事業
「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」実施報告書
—第1年次—

発行日 令和7年3月31日

発行者 大阪府立狭山高等学校

〒 589-0011 大阪府大阪狭山市半田4丁目1510番地

TEL 072-366-8400 FAX 072-367-6256

HP <https://www.osaka-c.ed.jp/sayama/>

